

津田 敬順『遊歴雜記』に記載された
「仁王門ハ往来の南向尔（に）ありて」

秦野 秀明

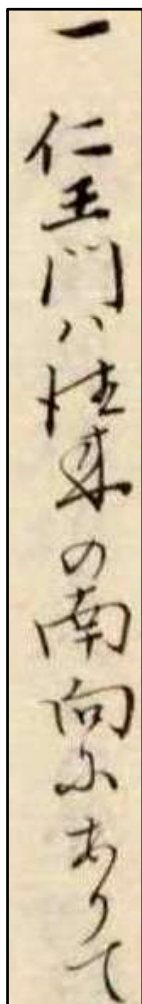
はじめに

「国立公文書館デジタルアーカイブ」⁽¹⁾に
人名 著者：津田 敬順
書名 遊歴雜記

として公開されているデータである「遊歴雜記1」⁽²⁾には、
以下の文章が記載されている。

①「仁王門ハ往来の南向尔（に）ありて」

出典…
注(2)より
部分引用←



そこで、①の文章に関して、「古文単語」及び「古典文法」
を用いた上で、その文章の意味を精査した。

一．「先行研究」及び「古語辞典」の活用

先行研究ではないが、過去に解説がなされた越谷市教育委員
会社会教育課編（一九八三）⁽³⁾には、以下のように記載さ
れている。

「入口の仁王門は南向きで」

次に筆者は、

①「仁王門ハ往来の南向尔（に）ありて」

を、以下のように区切った

「仁王門／ハ／往来／の／南向／尔（に）／あり／て」

その上で、「古語辞典」⁽⁴⁾を活用して、以下のような「古
文単語」及び「古典文法」による解釈の試みを行った。

仁王門…体言（名詞）「仁王門」

ハ…係助詞（体言に接続）

往来…体言（名詞）「道路」

の…格助詞（連体修飾語をつくる）（「所在」…の）

南向…体言（名詞）「南向き」

尔（に）…格助詞（体言に付く）（…において）

あり…補助動詞（ラ行変格活用）（…の状態にある）

て…接続助詞（活用語の連用形に付く）（…の様子で）

最後に、以下のような整理を行った。

①「仁王門八往來の南向尔（に）ありて」

「仁王門」は「道路」の「南向き」においての
状態にある様子で

←

「仁王門」は「道路」の「南向き」である

結びにかえて

「古語辞典」⁽⁴⁾を活用して整理をした結果、

①「仁王門八往來の南向尔（に）ありて」
は、

「仁王門」は「道路」の「南向き」である
と解釈した。

今回の筆者の解釈は、越谷市教育委員会社会教育課編（一九八三）⁽³⁾における記載内容と「同じ」であり、「国立国会図書館デジタルコレクション」⁽⁵⁾の『新編武蔵風土記稿』の挿絵「大聖寺境内図」⁽⁶⁾の配置とも「同じ」であった。

注

（１）「国立公文書館デジタルアーカイブ」

www.digital.archives.go.jp

（２）注（１）「遊歴雜記一」

<https://www.digital.archives.go.jp/DAS/meta/listPhoto?LANG=default&ID=F100000000000003194&ID=M2018041110534419469&TYPE=>

（３）越谷市教育委員会社会教育課編（一九八三）

『越谷歴史物語 第三集』越谷市

（４）「学研全訳古語辞典」

<https://kobun.weblio.jp/category/gkzki>

（５）「国立国会図書館デジタルコレクション」

<https://dl.ndl.go.jp/>

（６）注（５）『新編武蔵風土記稿』

<https://dl.ndl.go.jp/pid/764008/1/35>

追記

本論を執筆するに当たり、
大谷 達人氏に、「尔」の
文字の解釈及び「南向」の
文字の解釈のご指導を頂
きました事を、この場を
借りて感謝を申し上げます。



↑ 出典：注（６）より部分引用